

第 6 回 矢板市新庁舎整備検討委員会 会議録

会議名	第 6 回 矢板市新庁舎整備検討委員会
開催日時	令和 6 年 8 月 9 日（金）午前 10 時～午前 11 時 20 分
開催場所	矢板市泉きずな館 北館 2 階 泉公民館 会議室 5
出席者	【委員】 佐藤 栄治、戸井 出琉、福田 博光、渡邊 浩正、東泉 清寿、三好 良重、村上 和雄 【事務局】 矢板市総務課長、総務課管財担当 AIS総合設計（株）
議題	（１）新庁舎の建設場所の考え方について ① 候補地選定の考え方について ② 候補地に対する評価項目の考え方について
内容	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 （１）新庁舎の建設場所の考え方について ① 候補地選定の考え方について ② 候補地に対する評価項目の考え方について 発言者 矢板市新庁舎整備検討委員会 委員長：（委員長） 委員：（委） 矢板市総務課 事務局：特記なし （１）新庁舎の建設場所の考え方について ① 候補地選定の考え方について 矢板市総務課 事務局より 委員会資料から①候補地選定の考え方について 資料（p 1～p 2）の説明を行った。

	建設場所の候補地選定の考え方に関し、次の説明を行った。 ・ 候補地選定条件として、人口重心点より2 km圏内で探したいと考えています。 2 kmの根拠とは、徒歩30分圏内で到達できる距離とし設定しています。 ・ まず、この条件設定に関し審議願います。 以下委員からの質疑・指摘 ・ 条件が示されたが、委員側で候補地を探すことは難しい。（委） →まず人口重心点から2 kmの範囲内での候補地の選定という条件について承認が得られましたら、候補地の案を提示する予定をしています。 ・ 2 km圏内の条件で良い。（委） ・ 身近な所に庁舎があるということは良い。高齢化を考慮すると歩いていける2 kmの範囲は妥当と考える。また、片岡地区、泉地区でないが、人口が集約されたエリアでもあるということで、こちらで良い。（委） →人口重心点は片岡地区、泉地区を含め算出した指標になるので、妥当性の高いものと考えます。 ・ 人口重心点を中心ということは理解できるが、矢板駅を中心とした考えはないのか、片岡地区からの電車での利用等も踏まえて、人口重心点で決定した経緯を聞きたい。（委） →広域的に見た場合、人口重心点と矢板駅が大きく離れていないと判断し、人口重心点を採用しています。 ・ コンパクトシティの考えもあり、良いと考える。（委） ・ 先ほどの矢板駅を中心とした考え方は、交通結節点から見た公共交通の利便性を重視するということになる。例えば、将来自動車社会でなくなると想定した場合、主要駅を基点とすることも推奨できる。しかし今回は、駅と人口重心点が大きく離れていないので、同等に扱って問題ないとする。（委員長） ・ 「①候補地選定の考え方について」は人口重心点から半径2 km圏内が候補地選定の条件となります。この条件でよろしいか。（委員長） →承認する。（委員一同）
--	--

・条件が承認されたので、事務局より検討した候補地を示されたい。
(委員長)

・前回委員会で示した想定敷地面積の約1.7haを目安とし、市有地より候補地になりうる敷地を今回抽出しました。候補地案は現在の矢板市役所、旧川崎小学校に加え、1.7haには満たないが、矢板市子ども未来館周辺の計3か所を検討しています。
その他、候補地になりうる敷地があればご教示お願いします。

・子ども未来館の隣接する土地を含め、庁舎の建設地とすることも良いと考えられる。駐車場は他の民間のスペースを利用することもできるため、コンパクトな庁舎を建設するという方針で進めてはどうか。(委)
→子ども未来館、市武道館は現在供用中であるが、旧市営本町駐車場、旧商工会跡地を含めると、合計で約1haの利用が見込めます。市有地でまとまったスペースが確保できそうなことから、評価対象の候補地として加えて良いのではないかと考えています。

・消滅可能性がある市であるが、今後の自治体の対策により人口や利用者が増える可能性もあるため、規模を縮小し過ぎた結果、スペースが不足することは避ける必要がある。

候補地として、矢板小学校の敷地はどうか。児童数の減少に伴い、学校スペースの一部に余裕があれば候補地としての検討も良いかと思う。ただし、解体等の経費がかかると思われる。

旧川崎小学校が挙げられたが、内川沿いのため水害の懸念がある。

また、民有地のシャープ跡地は候補地になるか。(委)

→今回は評価対象の候補地を決定したいと思いますので、民有地でも候補にすべき敷地は、ご意見頂戴したいと思います。

・矢板小学校は、築何年のものか。学校統廃合等の計画は出ていないか。
(委員長)

→矢板小学校は基幹校となっているので、候補地としては難しいと考えています。建物自体は大規模改修、耐震改修を行ってきた状況です。

・他自治体で学校と図書館の併設事例はある。庁舎と学校の複合も先進事例として、考えることができるのではないか(委員長)

→管理やセキュリティなどは確保できますか。

→大きな渡り廊下でそれぞれの施設を区切ってセキュリティを管理する方法等もある。(委員長)

・東小学校の規模を大きくした上で建替え、矢板小の一部を東小へ統合し、空いた矢板小学校のスペースに新庁舎を整備することはどうか。
シャープ跡地は、用途が決定しているため対象にしなくて良い。(委)

→候補地検討の際に稼働している学校は除外していました。

また、矢板小学校は主要な建物で1976年度築、築40と数年になります。

・難しくなければ検討する候補地として挙げて良いと考える。(委員長)
→学校と庁舎の複合化の場合には、一般利用者の出入りも多く、児童の安全面から否定的な意見も出てこないか。(委)
→人が自由に出入りする公園内に学校を建てた事例も他自治体ではある。安全面での対策は必要だが、将来的なことも考えて、候補地として検討はしても良いと考える。(委員長)

・旧川崎小学校は、ハザードマップにて浸水想定区域内か。(委)
→洪水浸水想定区域内です。次に説明する評価項目に洪水浸水区域に関するものを入れており、点数で優劣を判定できるようにします。

・現矢板市役所も浸水想定区域内か。(委)
→洪水浸水想定区域内です。

・旧川崎小学校等浸水想定区域内においても、止水板等の浸水対策があれば整備は可能と考えられる。
また、現庁舎の敷地に関し、体育館の解体ができれば、仮設庁舎無しで整備できるのではないか。(委)
→仮設庁舎について次の評価で比較検討できるか。(委員長)
→検討している評価項目にあります。

・比較評価を行うのであれば、1.7haに縛られずに柔軟に考えた方が良い。(委)
→1.7haを目安と説明しましたが、候補地検討の際には縛られずに見た結果、市有地として提示できる場所が先の3か所です。
→その他に1ha程の敷地はないか。(委員長)
→まとまった市有地は、他にはありませんでした。

・提案として、候補地の一つにJR矢板駅付近の線路の上を追加してはどうか。JRとの調整が必要だが、線路上にも建築自体は可能。
また、民間への貸出ができ、民間活力につながる可能性もあると思われる。(委員長)

・候補地として次の5か所とする。(委員長)
現矢板市役所、矢板市子ども未来館周辺、旧川崎小学校、矢板小学校、JR矢板駅付近。
→承認する。(委員一同)

- (1) 新庁舎の建設場所の考え方について
②候補地に対する評価項目の考え方について

矢板市総務課 事務局より
委員会資料から②候補地に対する評価項目の考え方について

資料（p3～p8）の説明を行った。

以下委員からの質疑・指摘

- ・客観性のある評価と考えられるが、各項目を数値化した合計の値のみで判断してよいかは疑問が残る。この考えでは、機能を集約し、ただ庁舎を新しくするという内容に見える。重視するもの、目指すべき庁舎像があれば、その内容も判定できるとより良いのではないか。（委）

→評価基準は公平性を重視し、数値化した基準で今回提示しました。

- ・次回の評価結果の提示では素点を示すこと。素点を示すことで次回委員会にて評価点を詳細に精査できる。（委員長）

→評価の際、素点を示します。

→その方針で良い。（委）

- ・那須烏山市でも庁舎の検討委員会を組織しているが、年齢層が30、40代と若い世代で行なっている。これからの主な利用者となるため、若い世代の意見が重要と考える。（委）

→30、40代の意見の聞き取りができる機会はないか。（委員長）

→皆様の組織の若い方々の意見集約を頂くことはいかがでしょうか。

→この委員会の議事録が公開になるのであれば、評価前後どちらでもよいが役場内の若い方に意見聞いてみることも、機会があれば良いと思う。（委員長）

- ・評価項目は概ね網羅されているので、問題ない考える。

「②候補地に対する評価項目の考え方について」は資料のとおりでよろしいか。（委員長）

→承認する。（委員一同）

- ・事務局より、本日の内容をまとめた結果について、次のとおり説明。

・議題（１）

「①候補地選定の考え方について」は、承認いただきましたので、本日選定された候補地５か所を評価対象とします。

- ・なお、５か所の候補地は次のとおりです。

現矢板市役所

矢板市子ども未来館周辺

旧川崎小学校

矢板小学校

JR矢板駅付近

・議題（１）

「②候補地に対する評価項目の考え方について」は、承認いただきま

	したので、本日の内容で候補地の評価をいたします。 4 その他 無し 5 閉会
--	---